



看護学教育質向上委員会



## 「看護学教育質向上委員会」

### 1. 構成員

#### 1) 委員

萱間真美（委員長、聖路加国際大学）

宮本千津子（東京医療保健大学）、和住淑子（千葉大学）、宮林郁子（福岡大学）、

高見沢恵美子（関西国際大学）、菅原京子（山形県立保健医療大学）、石橋みゆき（千葉大学）

五十嵐ゆかり（聖路加国際大学）

#### 2) 協力者

なし

### 2. 趣旨

本委員会は、看護系大学における看護学教育の充実・向上を図るために、看護系大学の教育の質に関する事項並びに看護教員に求められる資質・能力向上に関する事項について検討することである。看護系大学が増加していく中で、学部生を対象とするだけでなく CNS や認定看護師の養成などの多様なコースも開講している。このような状況から、学生数や実習形態の煩雑化が臨地実習場所の確保や臨床指導者との調整を困難にしている。さらに学生の背景の多様化やそれに対応する教員の指導力不足等により、実習の在り方を問われるような現状もあるため実習を通じた看護学教育の質の維持、向上に課題がある。そのため看護系大学間で課題を共有し、課題解決と教育の向上を目的とした研修会を企画、開催することとした。

### 3. 活動経過

#### 1) 2016年11月6日（日）

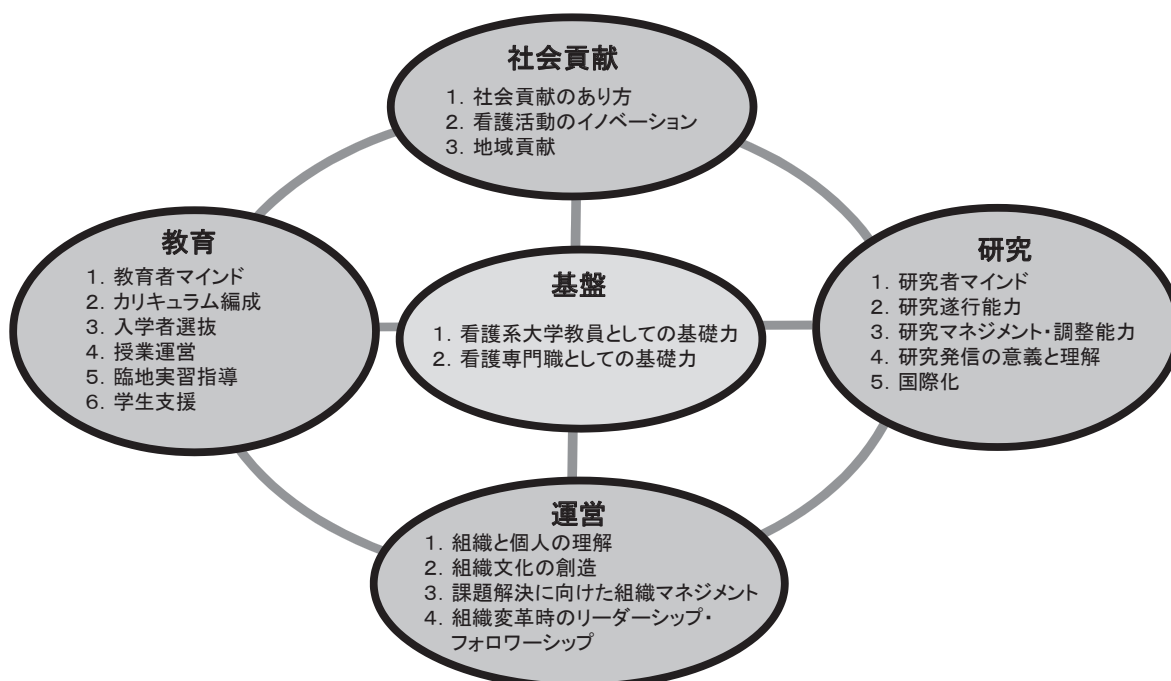
現在文部科学省で検討中の看護学教育モデル・コア・カリキュラムが普及の段階に入ったタイミングで、普及のプロセスを支援するための活動を計画・実施していく必要があることを申し合わせ、2018年3月ごろに研修会を企画することとした。また、2019年4月以降に各大学で看護学教育モデル・コア・カリキュラム（資料1）をふまえたカリキュラムが開始された以降は、看護学教育モデル・コア・カリキュラムについての活動を行うこととした。

看護の教育の中でも臨地実習の指導には多くの課題がありこれは長年の課題でもある。平成14年（2002年）文部科学省の看護学教育の在り方に関する検討会でも「実習受入施設との連携を図り、教育の基盤づくりに努める」とし、各大学は、臨地実習指導の充実に向けてそれぞれの状況に応じた方法で実習施設との連携を充実させ看護学教育の基盤を充実させる必要がある（資料2）とすでに述べられているものの、改善には困難な状況が続いていると言える。それは、平成27年（2015年）度文部科学省大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業報告書の結果（資料3）で述べられているように、169校の看護系大学からの調査結果で、臨地実習の困難さのひとつとして、特に精神科看護、老年看護、小児看護、母性看護、助産の実習は、社会や医療環境の変化を受け実習施設の確保が難しくなっていることや教員の实習対応時間について、学生指導に時間を要すること、施設側の要望や実習施

設が遠隔地であることなどのからの実習指導の拘束時間の長さ、過重労働の課題が挙げられていた。そのことにより実習指導の質に影響し、教員の疲労も指摘されていた。また、実習施設において学生が対象者への看護ケアを提供することに関する課題では、見学実習が多くなり学生の実践力を身につけるものになっていないという結果であった。実習における課題は、実習体制、大学と施設との関係性、学生自身の課題など多くの要因が絡み合っていることも述べられていた。

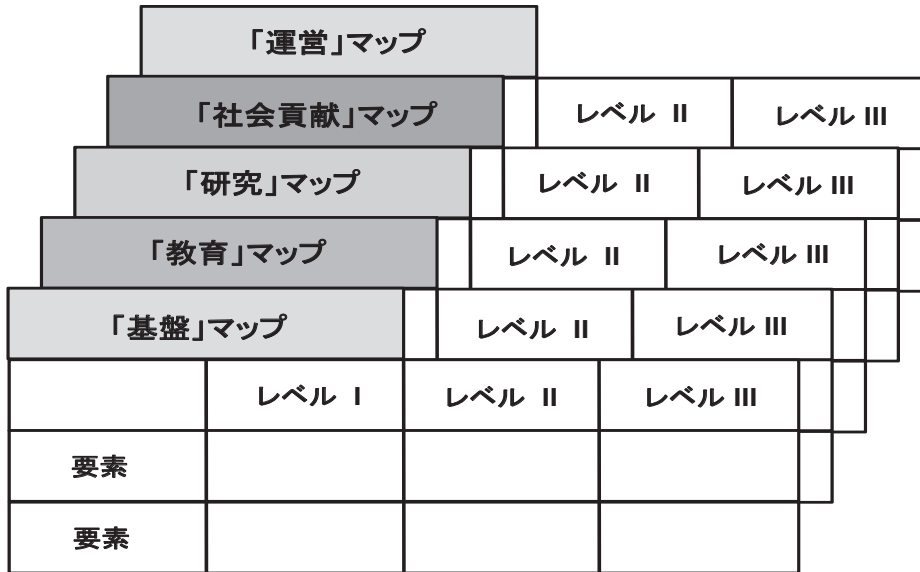
これらの状況からも 2017 年度は本委員会では「実習指導体制を向上させること」を目的に、会員校向けに「実習指導における困難と調整」に関するワークショップを行うこととした。また、看護学教育研究共同利用拠点である千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センターが開発している FD マザーマップ（資料 4）にも関連付け連携して活動する予定である。

### 看護学教育における FD マザーマップ全体構成



千葉大学大学院看護学研究科 附属看護実践研究指導センター(2016)看護学教育における FD マザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト活動・成果報告書（2011 年度～2015 年度） P70 より引用

5つのマップの基本構成



千葉大学大学院看護学研究科 附属看護実践研究指導センター(2016)看護学教育におけるFD マザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト活動・成果報告書(2011年度～2015年度) P70 より引用

2) 2017年1月29日(日)

会員校向けに以下の内容のワークショップの企画を行った。

テーマ：(仮) 多様化する実習指導とその能力向上

—実習指導に当たる教員のスキルアップのためのFD企画—

日時：2017年7月2日(日) 10:00-16:00

場所：聖路加国際大学 大村進・美枝子記念臨床学術センター

対象：参実習指導を主に行っている教員・臨床指導者、実習指導においてリーダー的な立場にある人、FD企画を行う立場にある人で、ワークショップ参加後に各大学でFDなどの研修会などを企画できる人

予定

午前：実習の実践例などを共有するシンポジウムとし、数名のシンポジストが話題提供する  
午後のグループワークを行うために必要な情報を共有する

午後：事例検討を中心としたグループワークを行う

1) グループワークの内容

ハラスメントに関する事例、実習調整が困難な事例、学生指導に苦慮した事例などの検討

2) 方法：実習指導の内容(学部担当者、上級実践実習)に合わせてグループ分けを行い、実習レベルに合わせたケースの検討を行う。

3) 作業目標：教材となるケースの抽出とそのケースの指導や対処の検討を行う。

本ワークショップは教材開発のキックオフミーティングの位置づけとする。また、会員校のネットワークづくりにも寄与するものである。その後は、ワークショップの成果物（各グループの検討内容、アンケート調査）を基盤として、有志による教材開発を行うこととする。開発した教材は会員校が自由にアクセスできるようにしていく。

2017年度の本委員会の目標の「実習指導体制を向上させること」に対しては、FD企画やその実施数などで評価を行っていく予定である。

#### 4. 今後の課題

- 1) ワークショップに向けてグループワークで使用する教材の準備を行う。
- 2) ワークショップをふまえ、会員校で活用可能な教材開発を行う。

#### 5. 資料

1) 文部科学省（2016）看護教育モデル・コア・カリキュラム策定ワーキング（第1回）配布資料  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/078/001/shiryo/1380964.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/001/shiryo/1380964.htm)

2) 文部科学省（2002）平成14年文部科学省の看護学教育の在り方に関する検討会の報告書 臨地実習指導体制と新卒者の支援  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm)

3) 一般社団法人日本看護系大学協議会（2016）平成27年度文部科学省大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業報告書  
<http://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/H27MEXTProject.pdf>

4) 千葉大学大学院看護学研究科 附属看護実践研究指導センター（2016）看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト活動・成果報告書（2011年度～2015年度）  
[http://www.n.chiba-u.jp/center/use/pdf/dc\\_160414.pdf](http://www.n.chiba-u.jp/center/use/pdf/dc_160414.pdf)